

## 令和元年 10月14日（祝・月）に人間福祉学会を開催しました

今年は就職して10年目、12年目になる司法福祉分野、地域福祉分野、児童福祉分野から3名の方々にお越しいただき、家族支援や地域への取り組みについて実践報告をしていただきました。



司法福祉分野では、更生保護を担う機関における支援についてお話をさせていただきました。そこでは、加害者などに（以下、当事者）社会復帰のための支援や社会に出てからの支援、処遇満期までの支援などに携わっておられます。

今回は特に家族支援についてお話をさせていただきました。当事者の家族は社会からのバッシングを受ける等の“被害者”でもあり、“当事者を支える立場の家族”でもあります。そのため、当事者や家族のつどいの場を設け相互関係を持つなかで、支えていく側としての気持ちの整理を行えるようにすることが、家族支援として重要な役割を果たしていることが分かりました。

地域福祉分野では社会福祉協議会における地域支援についてお話をさせていただきました。社会福祉協議会では、住民の視点に専門職の視点を融合させることで地域住民活動の幅が広がるという考え方のもとに様々な取り組みをされています。

その中での取り組みとして、地域住民同士で「ちょっと手伝って」という言葉を気兼ねなく言える「サービスの有料化（500円）」があります。自治会長や班長を中心に取り組みを進めることで、住民同士の関係を密にすることができ、互助の関係性の構築にも繋がっていることが分かりました。

また、交通の不便さから、引きこもりがちになっている高齢者が、外出しやすいように、地域住民、地域の社会福祉法人、地域の店舗などが協力するしくみづくりの取組についても

発表していただきました。地域のニーズを把握することから、地域住民主体の活動へと展開する社会福祉協議会の役割が具体的に分かりました。

児童福祉分野では、放課後等デイサービスと児童発達支援事業所における保護者支援についてお話をしていただきました。

保護者支援としては、子ども理解や保護者同士の仲間づくりを行っています。

ライフステージに合わせて、途切れた支援にならないように事業所とだけでなく、保護者同士の繋がりが出来るように保護者支援が行われています。

具体的には、実際に療育を見ていただくことや保護者学習会を通して、子どもの理解を深めたり、客観的に日々の子育てについて考える機会を作るなどの取り組みをしておられます。周りを巻き込みながらみんなで子どもを支援していくことが、家族を孤立させず、継続した支援を行えるのだと分かりました。

各卒業生の発表が終わり、その後の情報交換会では、精神福祉分野・地域福祉分野・児童福祉分野に分かれ、それぞれが現在の職場での取り組みについての話をし、抱えている葛藤に対してアドバイスをしたり、意見交換などを行っている姿が見られました。

